

ゼロカーボン凡回第一步！

日々のちょっとした行動の積み重ねが、ゼロカーボンシティへの大切な一歩です。未来のために、まずは身近なことから始めましょう。
(参考：環境省「COOL CHOICE」)



衣服

日本の衣類廃棄量は年間約 100 万トン。1 人当たり、なんと約 26 着分！洗濯表示を確認する、適切にケアする、先のことを考えて買うなど、気に入った 1 枚を長く大切に着ることもサステナブル（＝持続可能）なファッションとの付き合い方です。

- 今持っている服を長く大切に着る
- 長く着られる服をじっくり選ぶ
- 環境に配慮した素材や方法で作られた服を選ぶ



住まい

家庭からの二酸化炭素排出量の約半分を占める電気。最新家電は省エネ化が進んでいるため、旧型家電を使用していると電気代が 2 倍になることも!? また、電気の約 5% は待機電力で消費されています。小まめなスイッチオフなどを心がけましょう。

- 省エネ家電・LED 照明などへの買い換え
- 脱炭素型の製品・サービスの選択
- 小まめなスイッチオフ、電気製品のプラグをコンセントから抜く



食事

日本の食品ロス（食べられるのに捨てられてしまう食べ物）は、1 人 1 日当たりおにぎり約 1 個分。大量の食品ロスは、廃棄時に加え、生産や流通時のコストや二酸化炭素排出も無駄になります。食事を食べ残さないために、食べ切れる量を見極めて購入し、食品ロスを減らしましょう。

- 食べ切れる量を買う
- 保存を工夫し、食べられるものを捨てない
- 余剰食品はフードドライブ（食べ物を必要としている人につなぐ役割）に寄付する



移動

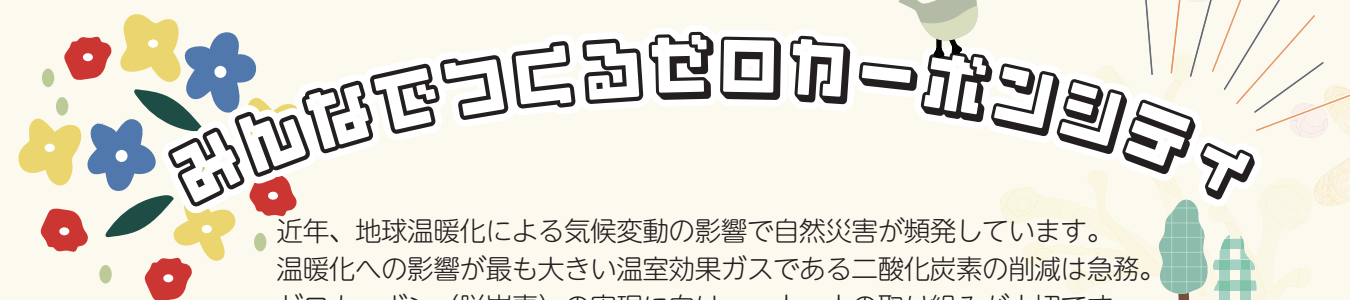
自動車の二酸化炭素排出量は、家庭からの排出量の約 4 分の 1 を占めます。徒歩、自転車、公共交通機関など、自動車以外の移動手段の選択（スマートムーブ）や、エコドライブなどを心がけていきましょう！

- 近い距離はできるだけ徒歩や自転車で移動
- 自動車は「ふんわりアクセル」で発進する
- 公共交通機関など、自動車以外の移動手段を選択肢に入れる

野菜くずを野菜の肥料に！
園児の SDGs 教育の一環として、令和 4 年度から生ごみ処理機を導入しました。給食の調理で出る野菜くずを園児が運び、生ごみ処理機へ投入しています。処理後の野菜くずは、業者が回収し 2 次処理（発酵）をした後、堆肥となつて保育園に届けられます。堆肥は、園内の畑で栽培する野菜や花の肥料として活用しています。
資源の循環を学びながら、生ごみ廃棄量減少により、焼却時に排出される二酸化炭素削減にもつなげています。



富奥保育園



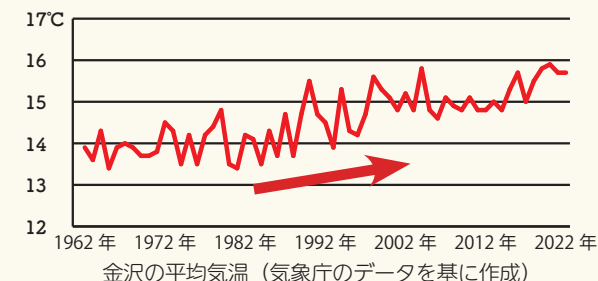
ゼロカーボンシティをめざす

近年、地球温暖化による気候変動の影響で自然災害が頻発しています。温暖化への影響が最も大きい温室効果ガスである二酸化炭素の削減は急務。ゼロカーボン（脱炭素）の実現に向け、一人一人の取り組みが大切です。

市民生活課 ☎ 227-6052

野々市市気温が上昇しています！

野々市に隣接する金沢市の平均気温は、60 年前と比べると、なんと約 2℃ 上昇！二酸化炭素を中心とした温室効果ガスの排出量増加が、大きな原因となっています。



地球温暖化による影響

自然災害

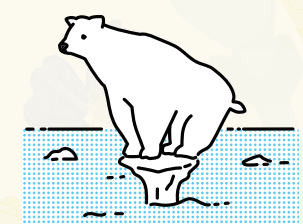
大雨やゲリラ豪雨が増え、水害や土砂崩れの危険性が高まる
また、海水面の上昇により高潮などの危険性が高まる

水・食料不足

日照りや水不足による農作物の収穫量減少
海水温上昇による漁獲量減少など

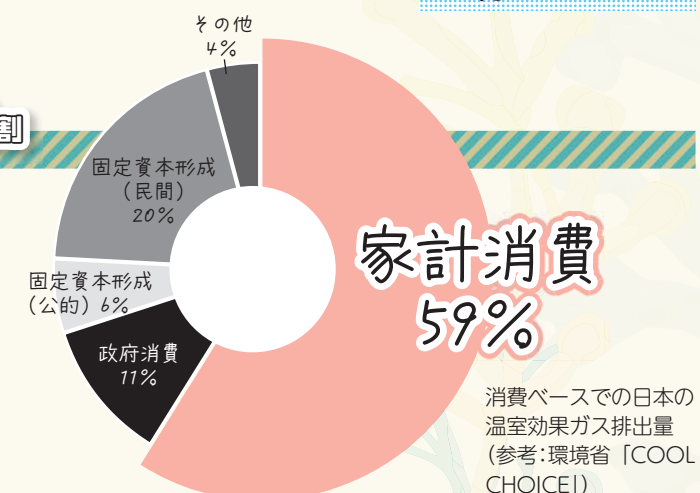
熱中症

真夏日や猛暑日が増え、熱中症リスクが増加



温室効果ガスは家庭からの排出量の約 6 割

衣・食・住・移動など、私たちが普段の生活の中で消費する製品・サービスのライフサイクル（製造、流通、使用、廃棄などの各段階）で排出される温室効果ガスが、日本の排出量の約 6 割を占めています。つまり、私たちのちょっとした工夫やライフスタイルの見直しが、地球温暖化を防ぐポイントといえます。



野々市市小学校・富奥小学校・御園小学校の 3 校や富奥防災コミュニティセンターに太陽光発電システムを導入し、再生可能エネルギーの活用を進めています（写真は御園小）。発電した電気は、太陽光パネルを設置している建物内で使用したり、電力会社へ売電したりしています。
また、令和 5 年度中に電気自動車 1 台を公用車として導入します。移動による二酸化炭素の排出を抑制し、ゼロカーボンドライブを推進していきます。

クリーンエネルギーの活用



野々市市の取り組み

Action 行動

コンポストではじめの循環型 ライフスタイル体験講座

生ごみは捨てずにコンポストへ。作った堆肥で野菜を育て、食べ、生ごみはまたコンポストへ。キッチンから“捨てない暮らし”を始めませんか。コンポストの仕組みや堆肥を使った家庭菜園が学べます。「ラディッシュづくりがすぐ始められるセット」付き！

日時 6月18日(日) 10:00～11:30
場所 にぎわいの里のいち カミーノ
講師 平本奈央子氏
対象 市民（小学生同伴可）
定員 30人程度



申込 中央公民館 ☎ 248-0521

市役所東側 エコステーションの利用

市役所東側エコステーションでは、資源ごみを回収しています。24時間持ち込み可能（年末年始除く）で利用料金はかかりません！9:00～18:00は係員がいますので、分別方法など不明点があれば気軽に声かけください。

回収品目
あきかん、あきびん、ペットボトル、古紙類（新聞、雑誌、本、チラシ、ダンボール、雑がみ）、牛乳パック、古着・布類（Tシャツ、ワイシャツ、ジーパン、セーター、タオルなど）、鍋・やかん、電池
※容器包装プラスチックは回収していません

市役所東側 ☎ 227-6052

生ごみ処理機・処理容器（コンポストなど）を買った人・買う予定の人必見！！

家庭用生ごみ処理機等の購入費用の一部を補助

家庭から出される生ごみの減量や堆肥化による循環型社会の構築のため、生ごみ処理機などの購入費用の一部を補助します。ごみの減量は、ごみ処理に伴い排出される温室効果ガスの削減につながり、地球温暖化対策にもなります。

詳細は
市ホームページ→



対象	以下の要件を全て満たす人 ①市内に住所があり、かつ居住している ②処理機などを常に良好な状態で維持管理できる ③減量化または堆肥化した生ごみを適正に処理できる
対象機器・基数	(1)生ごみ処理機（1世帯1基まで） 機械的に水分の調整を行うことにより、生ごみの容積を減少させる、または生ごみを堆肥化させる機器 (2)コンポストなど生ごみ処理容器（1世帯2基まで） 微生物の働きで生ごみを分解し堆肥化するための容器 ※購入時点で未使用の機器 ※生ごみ処理機および生ごみ処理容器をそれぞれ購入する場合は各1基まで ※ディスプレイ式は対象外
補助金額	生ごみ処理機など本体の購入費用（税込み）の2分の1 ※生ごみ処理機は上限3万円、生ごみ処理容器は上限3千円、100円未満切り捨て ※ポイントやクーポンなどによる割引額を除く ※別売りの付属品、設置に係る作業費用、促進剤、菌床、送料、振込手数料などは対象外
申請方法	申請書に必要書類を添えて市民生活課へ提出してください。 ※申請期限は処理機などの購入日から1年以内 添付書類 □購入した生ごみ処理機または生ごみ処理容器の設置写真 □領収書原本（購入年月日、販売店名、販売店住所、購入者氏名、購入機器、購入金額（本体価格）が確認できるもの。 振り込みによる支払いの場合は振込証明書、クレジットカード払いは利用明細書など） □保証書の写し ※生ごみ処理機の場合 □通帳の写し（金融機関、支店、口座番号、口座名義が確認できるもの） 提示書類 □マイナンバーカードや運転免許証など、市民であると確認できる書類（郵送で申請する場合は写しを添付）

申込 市民生活課 ☎ 227-6052

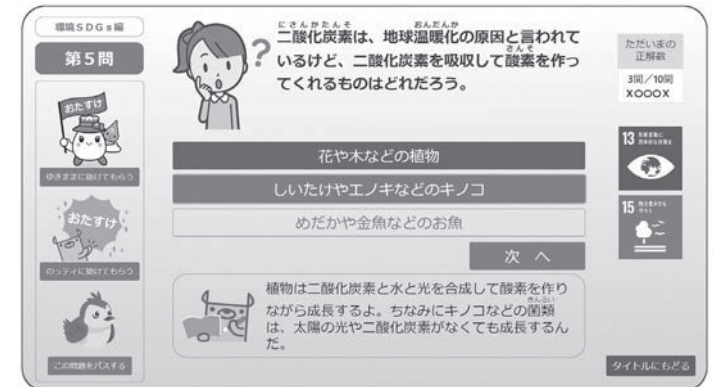
Learn 学ぶ

環境について楽しく学ぼう！

環境クイズ

環境月間に合わせて、野々市市、白山市、川北町と白山野々市広域事務組合では、ごみの減量化と環境問題の啓発を目的とした「環境クイズ」を公開しました。

ごみの分別やリサイクルについて学ぶ「ごみ・リサイクル編」、最新の環境問題や気候変動対策を題材にした「環境SDGs編」、ごみの処理方法を紹介する「環境クリーンセンター編」の3つに分かれており、250問以上の中からランダムで10問が出題されます。クイズに挑戦して、ごみ処理などの身近な環境への取り組みを発見し、地域の環境保全や持続可能な社会の実現に必要な行動について考えてみましょう。



二次元バーコードから
環境クイズに挑戦！→



学びの杜のいち カレード環境月間特別展示

「ごみ」と「環境」パネル展

家庭から出たごみの処理方法や資源ごみの行方、ごみ減量化のポイントについて展示を行っています。また、環境問題に関連する読み物や専門図書も多数紹介しています。

期間 6月13日(火) 16:00まで
場所 学びの杜のいち カレード



【高校生以下対象】

挑戦！環境チャレンジカップ

5月30日(火)(ごみゼロの日)から8月31日(木)まで、環境チャレンジカップを開催します。「環境クイズ」「ごみ分別ゲーム」「リサイクルカードゲーム」に挑戦してカップを集めると、のっティグズなどがもらえる懸賞に応募できます。詳細は、「環境チャレンジカップ」特設サイトを確認ください。
※懸賞は市内在住の高校生以下の人が対象



↑
環境チャレンジカップ
特設サイト

未来のために今始めよう
市では、環境月間に合わせて、環境について楽しく学べる『環境クイズ』や、家庭ごみの行方などを学べる『ごみ』と『環境』パネル展などを実施します。また、生ごみ処理機・生ごみ処理容器の購入費用を補助する制度が、令和5年4月から始まっています。私たちの未来は、一人一人の行動によって形作られます。この機会に、地球温暖化やゼロカーボンシティ、身の回りの環境保全、資源・エネルギー問題など、幅広く環境問題について考え、学び、行動してみたいかがでしょう。

6月は環境月間
国連は、1972年6月にストックホルムで開催された国連人間環境会議を記念し、6月5日を「世界環境デー」と決めました。日本では、環境省が6月5日を「環境の日」、6月を「環境月間」としています。また、5月30日は「ごみゼロの日」、6月上旬は「ごみ減量・リサイクル推進週間」と、環境・ごみ関係の日や週間が集中しています。